

## 僕の幸せを考えた

鹿児島東高1年

高山 利空

気になる新聞記事を見つけた。国連児童基金(ユニセフ)が先進・新興国38カ国に住む子どももの幸福度を調査した報告書で、「日本の子どもも幸福度37位」という見出しの記事だった。

実は僕もあまり精神的な幸福度を感じていない。楽しいことや面白いことをしても、「幸せの時間はこの時間」と思う時はほとんどない。目標

## 若い目

や夢を持っているのかいないのか、分からない退屈な日々を送っている。

幸福度が低そうに見えるが、唯一「幸せ」と感じる時がある。母が僕を産んでくれたことに改めて気づく時だ。おいしいご飯を作ってくれる母。どんな時でも支え、心配してくれる母。温かい目で見守ってくれる母。支えてくれるのは母だけではなく、父や祖父母、同級生、先輩、後輩、恩師などたくさんの方がい

る。お世話になった人々に感謝の気持ちを持たず、僕はこれからもたくさん「幸せ」をつくりていきたい。そう考えたら、少し幸せな気持ちになってきた。(鹿児島市)